

病気の早期発見のために必要な 健康診断のベーシック検査とは？

血液化学検査

臓器・器官系の状態を調べる血液検査

臓器・器官系が、正常に動いているか、どこかに異常が生じていないかを調べる基礎的な検査で、各臓器・器官系に関連する複数の項目をみながら判断します。



腎機能障害・腎不全:

Alb, BUN, Cre, BUN/Cre, IDEXX SDMA®, P, Ca, Na, K

ネフローゼ症候群:

Alb, TCho

副腎皮質機能亢進症(犬):

ALT, ALP, GGT, TBil, TCho, Glu

副腎皮質機能低下症:

Glu, BUN, Cre, BUN/Cre, Na, K

脾炎(犬):

Alb, Amy, Lip, BUN, Cre, Ca

糖尿病・低血糖:

TCho, Glu
[追加検査]
脾特異的リパーゼ, TLI, インスリン, フルクトサミン, CRP

TP, Alb, Glob, TCho, Na, K, Cl



TP, Alb, Glob

肝細胞の腫大・壊死:

ALT

胆道系疾患等:

ALP, GGT, TBil, TCho

肝不全:

Alb, TCho, Glu, BUN

[追加検査] 総胆汁酸, NH3

甲状腺機能低下症(犬):

TCho

甲状腺機能亢進症(猫):

ALT, ALP

[追加検査]
犬の低下症: T₄, FT₄, c-TSH
猫の亢進症: T₄

Alb, BUN, Cre, BUN/Cre, P, Ca

Na, K, Cl

完全血球計算

全身を巡る血液から体全体の状態を調べる基礎的かつ重要な血液検査です。赤血球や白血球の数を数えることで貧血や炎症、感染症の有無などを調べます。



尿検査

尿は、血液とともに、健康状態を調べたり、病気の診断や治療効果を判断するための重要な情報源となります。血液検査とともに行うことで、泌尿器系の病気や糖尿病などを調べることができます。



その他の検査

問診・身体検査、レントゲン検査や超音波検査、そして、消化管内の寄生虫の有無を調べる便検査など、さまざまな検査があります。



09-2690081-00



ボクの1年は
人間の4歳分!

検査結果ご案内

おなまえ

ちゃん

1歳を過ぎたら年に1回、
7歳頃からは年に2回の定期健診を!



健康時から
検査データを蓄積



体の変化を見守ることで
病気の早期発見を!

長くすこやかに一緒に過ごすために 元気なときから、動物病院で定期的な健康診断を!

動物病院の
検査情報サイト

CareMyPet

どうぶつ
専用検査



ケアマイペットは、動物臨床検査の世界的なリーディングカンパニーIDEXXがご提供します。

www.idexx.jp/cmp

IDEXX

検査結果報告書の各項目について

総合的なスクリーニング検査項目と、各項目に関連する代表的な疾患をご紹介します。
今回の検査結果報告書と併せてお確かめください。

詳しい結果の解釈につきましては、獣医師の先生の説明をお聞きください。 ※今回の検査結果が参考基準値から外れていても必ずしも異常を示すものではありません。



血液化学検査 臓器・器官系の状態を調べる血液検査で、各項目を組み合わせて総合的に判断します。

総蛋白(TP)	血液中の蛋白質の総量を示し、栄養状態、肝・腎機能や免疫機能の指標となります。Alb、Globの数値と併せて評価します。
アルブミン(Alb)	血液中に多く含まれる蛋白質です。上昇は脱水、低下は肝臓、腎臓、腸などの疾患や出血などが疑われます。
グロブリン(Glob)	血液中に多く含まれる蛋白質です。上昇は脱水、感染、腫瘍、減少は免疫不全の疑い、幼若動物などがあります。
アルブミン/グロブリン比	アルブミンとグロブリンの比を算出したものです。アルブミンの低下やグロブリンの上昇を引き起こすような疾患が考えられます。
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	肝臓、骨格筋、心筋に多く含まれている酵素です。主に肝臓や筋肉のダメージの指標として用いられます。
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	肝臓に多く含まれている酵素です。主に肝臓のダメージの指標として用いられます。
アルカリフォスファターゼ(ALP)	主に肝臓や骨に含まれている酵素です。胆道系疾患(胆汁うっ滞など)や骨の成長期、腫瘍などの影響により上昇する場合があります。犬ではステロイドの影響で上昇します。
ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ(GGT)	主に胆道系疾患(胆汁うっ滞、胆管肝炎など)で上昇する酵素です。犬ではステロイドの影響で上昇します。
総コレステロール(TCho)	生体の主要脂質成分であるコレステロールの血液中の総量を示します。肝臓や胆道、腎臓の疾患や、糖尿病、甲状腺機能低下症などの内分泌疾患などで上昇します。肝不全、小腸疾患などで低下します。
トリグリセライド(TG)	高脂血症の指標として用います。甲状腺機能低下症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症、肝臓病等で上昇することがあります。食事の影響を受けるため、食後にも上昇します。
総ビリルビン(TBil)	赤血球中のヘモグロビンの代謝産物です。溶血、肝障害、胆汁うっ滞や胆道閉塞などで上昇し、黄疸の原因となります。
グルコース(Glu)	血糖値を示し、糖尿病や低血糖の診断に用います。食事の影響を受けるため、食後に上昇します。また興奮などのストレスやステロイドの影響により上昇する場合があります。
アミラーゼ(Amy)	主に膵臓から分泌される消化酵素です。症状がある犬で著しい高値を示した場合は、膵炎の可能性が疑われます。
リパーゼ(Lip)	主に膵臓から分泌される消化酵素です。症状がある犬で著しい高値を示した場合は、膵炎の可能性が疑われます。
尿素窒素(BUN)	腎臓から排泄される蛋白質の代謝産物で、食後や脱水、腎機能の著しい低下、消化管内出血などで上昇します。また、腎機能の低下により減少することもあります。
クレアチニン(Cre)	腎臓から排泄される筋肉の代謝産物で、食後や腎機能の著しい低下などで上昇します。低下の原因としては、著しい筋肉の減少などがあります。
BUN/クレアチニン比	BUNとクレアチニンの比を算出したものです。これらの値に異常が見られた場合に、腎臓性がそれ以外かを判断する補助的な指標です。
IDEXX SDMA®	腎臓から排泄される細胞の代謝産物である対称性ジメチルアルギニンのことです。食事や筋肉の影響は受けず、腎機能のわずかな低下で上昇します。
リン(P)	副甲状腺疾患、腎臓病、食事内容などにより変動します。
カルシウム(Ca)	骨代謝や筋肉の収縮、血液凝固などに関与します。主に腎臓や副甲状腺の疾患などで変動します。また、腫瘍で上昇する場合があります。
ナトリウム(Na)/カリウム(K)/クロール(Cl)	Na、K、Clは電解質と呼ばれ、細胞の浸透圧調節や体内の酸-塩基平衡(pH)調節、神経伝達など重要な機能を担っています。腎疾患、内分泌異常、脱水、嘔吐、下痢など様々な病態で変動します。

完全血球計算 血液中の細胞数をカウントすることで、貧血や炎症、感染、腫瘍、ストレス状態を調べることができます。

赤血球数(RBC)	貧血、赤血球増加症などを示す指標	高値:脱水、心(肺)疾患、真性赤血球増加症 低値:様々な原因による貧血 ※網赤血球数:未成熟な赤血球で、貧血の原因特定に重要な指標。 高値:骨髄での造血能力あり 低値:骨髄での造血機能の低下	
ヘモグロビン濃度(HGB)			
ヘマトクリット値(HCT)			
平均赤血球容積(MCV)			
平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)			
平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)			
網赤血球数(RET)*			
総白血球数(WBC)	炎症性疾患などを示す指標	WBCは炎症や感染などで変動しますが、WBCとともに以下5種類の血球を分類することで、より詳細に体の中の異常を発見できます(白血球5分類)。 高値:運動、ストレス、細菌感染、炎症、腫瘍、自己免疫疾患など 低値:ウイルス感染、激しい細菌感染、飢餓など 高値:興奮(猫)、慢性炎症、腫瘍など 低値:ストレス、ウイルス感染など 高値:ストレス、慢性炎症など 高値:アレルギー疾患、寄生虫感染、腫瘍など 低値:ストレスなど 高値:慢性炎症、内分泌疾患など	
白血球5分類			好中球数(Neu)
			リンパ球数(Lym)
			単球数(Mon)
			好酸球数(Eos)
好塩基球数(Bas)			
血小板(Plat)	出血性疾患などを示す指標	高値:急性出血、血小板再生反応など 低値:慢性出血、自己免疫疾患、播種性血管内凝固症候群(DIC)など	

尿検査 泌尿器系の病気や糖尿病だけでなく、血液化学検査とともに行うことで様々な病気を調べることができます。

比重	低値:腎臓病、尿崩症、内分泌疾患など	ビリルビン	黄疸の指標であり、高値は肝胆道系疾患を疑います。犬では正常でもわずかに検出されますが、猫では陰性が正常です。
pH	高値(アルカリ尿):尿路感染症、食事性など 低値(酸性尿):アシドーシス、食事性など	ケトン体	糖尿病、飢餓、絶食などで検出されることがあります。
蛋白	尿路系に出血、炎症がある場合や腎臓に異常がある場合に出現します。	潜血	陽性の場合、尿中の赤血球(出血)、ヘモグロビン(出血、溶血)またはミオグロビン(筋肉の挫滅)の存在を示唆します。
糖	主に糖尿病で認められます。腎臓の異常でみられることもあります。		

その他の追加検査

C反応性蛋白(CRP)	全身性の炎症がある場合に上昇する蛋白質の一種で、犬では感度の高いマーカーです。炎症状態の改善または悪化に伴って急激に変化します。
血清総サイロキシン(T ₄) 遊離サイロキシン(FT ₄) 犬甲状腺刺激ホルモン(c-TSH)	甲状腺疾患(犬では甲状腺機能低下症、猫では甲状腺機能亢進症)が疑われる場合に検査します。
犬膵特異的リパーゼ(Spec cPL™) 猫膵特異的リパーゼ(Spec fPL™)	いくつかあるリパーゼのなかでも、膵臓のリパーゼのみを特異的に検出します。嘔吐、食欲不振、下痢などがみられ、膵炎を疑う場合に検査します。
Cardiopet® proBNP (NT-proBNP)	心臓の負荷を表し、高値の場合は心臓病がある可能性があります。聴診や画像検査と合わせて、心臓の状態を総合的に評価する指標です。
フルクトサミン	過去2~3週間の平均血糖値を反映します。糖尿病が疑われる場合やモニタリング時に検査します。
尿中蛋白/クレアチニン比(UPC)	尿中の蛋白量を測定します。腎臓病の診断に重要な指標のひとつです。持続的な高値がみられる場合は、腎臓から蛋白質が漏出している可能性があります。
総胆汁酸(TBA)	胆汁の主成分で、高値の場合は肝機能低下や肝臓の血管の異常が疑われます。